

「日本3.0」

Vol.9

なぜ今の日本に「教養」が必要なのか

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

したかというところ、「日本3.0」という新しい時代を作るリーダーにいちばん必要なのは、教養だと痛感していたからです。

今の日本は、空前の「教養ブーム」です。しかし、教養という言葉は未だフワっとしており、その内実が何を意味するのかは定まっていません。うんちくを語るための「教養」という色彩が強く、教養を身につけるためのメソッドが体系化されていない状況です。

このままでは、教養ブームが単なる「物知り競争」に終わってしまう——そんな危機感を抱いたことが、「リーダーの教養書」を企画したきっかけです。

ビジネスの世界にいると「新しいもの病」にかかってしまいます。私のようなメディア関係者が典型ですが、いつい新しい言葉や概念にばかり飛びついてしまう人は多くいます。

しかし、いかにテクノロジーが発展しようとも、ビジネスや生活を営んでいるのはあくまで人間です。人間の本質は今も昔も変わりません。

むしろ、貧乏、戦争、病気などの苦労があふれていた過去のほうが、人間の本質がむき出しになることが多かったでしょう。過去の知恵から学べることは今も無数にあるのです。

まずやるべきことは、新しい時代にあわせて、「頭の中のOS」を切り替えていくことです。そして、「頭の中のOS」を形づくるのが教養です。

だからこそ、具体的なスキル（アプリ）をダウンロードするより前に、まずOSである教養を積み重ねないといけないのです。

しかし日本では、18歳まで受験まっしぐらで勉強した後、「頭の中のOS」を切り替えるための時間や場がありません。そのため、18歳のままのOSで一生を過ごすことを余儀なくされているのです。今後の世界は「一生勉強時代」に突入します。誰もが10年に一回、長くとも20年に一回は、OSを切り替えることが必須になるでしょう。

4月後半、私が編集長を務める経済ウェブメディア「ニューズピックス」は、幻冬舎とのコラボレーションで「リーダーの教養書」という本を上梓しました。

これは歴史、経済、宗教といった文系分野から、数学、コンピュータサイエンス、生物学といった理系分野まで、各分野の専門家に「リーダーが読むべき130冊の本」を推薦してもらった企画です。

なぜ今、教養をテーマにした本を出



Profile

NewsPicks編集長

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4カ月で同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。2014年7月から経済ニュースサイト「NewsPicks」の編集長を務める。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか?」がある。